

LM・グローバル・プラス (毎月分配型)

追加型投信／海外／資産複合

交付運用報告書

第167期(決算日2017年11月8日) 第168期(決算日2017年12月8日) 第169期(決算日2018年1月9日)
第170期(決算日2018年2月8日) 第171期(決算日2018年3月8日) 第172期(決算日2018年4月9日)

作成対象期間(2017年10月11日～2018年4月9日)

第172期末(2018年4月9日)	
基準価額	9,068円
純資産総額	36,405百万円
第167期～第172期	
騰落率	△2.5%
分配金(税込み)合計	105円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「LM・グローバル・プラス(毎月分配型)」は、2018年4月9日に第172期の決算を行いました。

当ファンドは、毎月の分配と中長期的な信託財産の安定成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。

レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

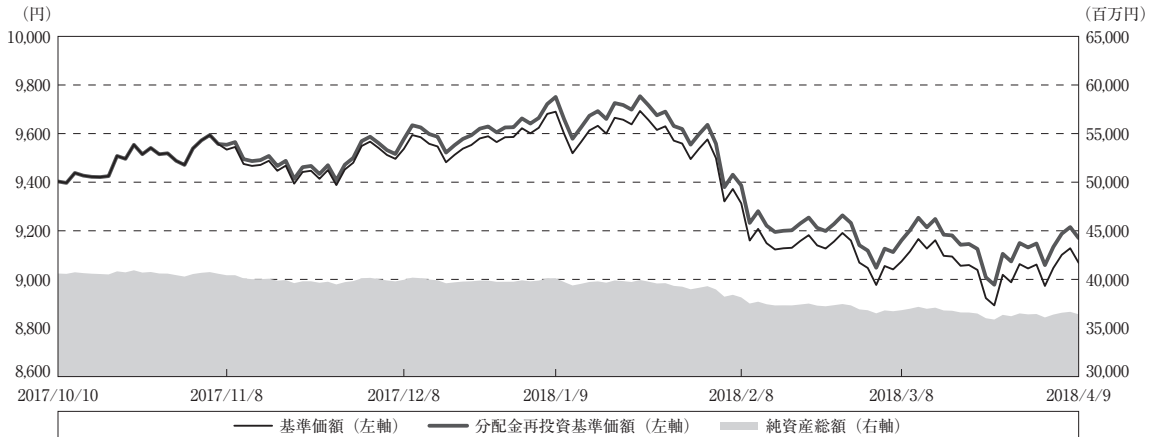
(営業日の9:00～17:00)

<http://www.leggmason.co.jp>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2017年10月11日～2018年4月9日)



第167期首：9,403円

第172期末：9,068円（既払分配金(税込み):105円）

騰落率：△ 2.5%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2017年10月10日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当作成期末（2018年4月9日）のLM・グローバル・プラス（毎月分配型）（以下、当ファンド）の基準価額は9,068円（分配金控除後）となりました。当作成期の当ファンドのパフォーマンス（騰落率）はマイナス2.5%（分配金再投資ベース）、基準価額は230円（分配金込み）下落しました。

株式損益についてはプラスとなりましたが、欧米債券利回りの上昇を受けて公社債損益はマイナスとなりました。また、為替市場で米ドルやユーロが円に対して下落したことから、為替損益もマイナスとなりました。

1万口当たりの費用明細

(2017年10月11日～2018年4月9日)

項 目	第167期～第172期		項目の概要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	60	0.643	(a) 信託報酬 = 作成期間の平均基準価額 × 信託報酬率
（投信会社）	(29)	(0.305)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(28)	(0.300)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(4)	(0.037)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.017	(b) 売買委託手数料 = 作成期間の売買委託手数料 ÷ 作成期間の平均受益権口数
（株 式）	(1)	(0.013)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（投資証券）	(0)	(0.000)	
（先物・オプション）	(0)	(0.004)	
(c) 有価証券取引税	0	0.002	(c) 有価証券取引税 = 作成期間の有価証券取引税 ÷ 作成期間の平均受益権口数
（株 式）	(0)	(0.002)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（投資証券）	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	1	0.015	(d) その他費用 = 作成期間のその他費用 ÷ 作成期間の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.009)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷等費用）	(0)	(0.004)	印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出に係る費用
合 計	63	0.677	
作成期間の平均基準価額は、9,375円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

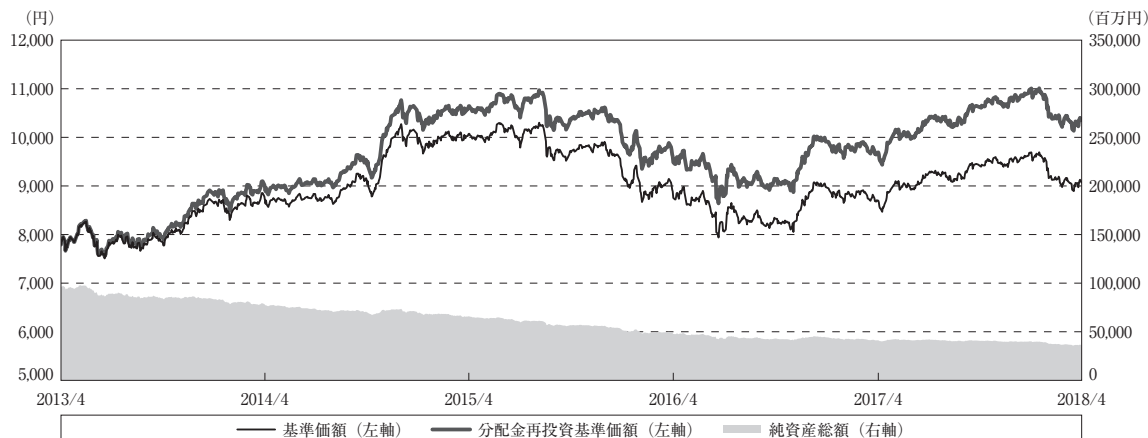
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2013年4月8日～2018年4月9日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2013年4月8日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2013年4月8日 決算日	2014年4月8日 決算日	2015年4月8日 決算日	2016年4月8日 決算日	2017年4月10日 決算日	2018年4月9日 決算日
基準価額 (円)	7,791	8,713	10,074	8,754	8,698	9,068
期間分配金合計(税込み) (円)	-	240	240	240	240	225
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	15.2	18.6	△ 10.9	2.2	6.8
純資産総額 (百万円)	95,741	77,742	65,926	47,722	41,155	36,405

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。
- (注) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

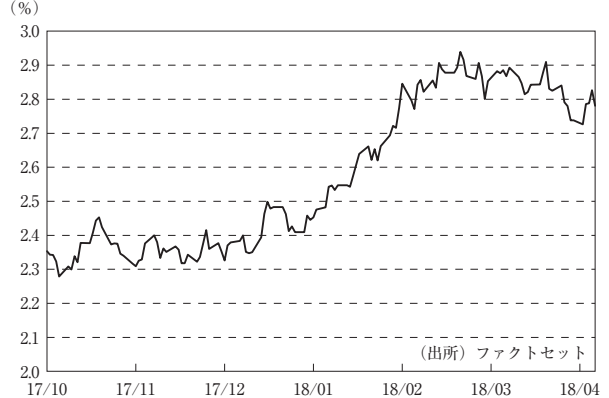
投資環境

(2017年10月11日～2018年4月9日)

当作成期の米国債券市場は、利回りが上昇（価格は下落）しました。期の前半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による今後の利上げペースを巡る憶測が交錯する中、利回りは方向感の定まらない展開となりました。期の半ばは、米税制改革法案の成立期待が高まり、景気刺激効果を織り込む動きが広がったことから、利回りは上昇しました。その後も、FRBによる利上げ加速の思惑が広がったことや、米歳出拡大観測による米国国債の発行増加への警戒感が強まったことなどから、利回りは上昇傾向となりました。期の後半は、米国株式相場の急落を受けて安全資産としての債券買いが見られたことなどから、利回りはやや低下（価格は上昇）しました。その後も、株式市場が乱高下する中、利回りは緩やかな低下基調で推移しました。

当作成期の欧州債券市場は、利回りが上昇しました。期の前半は、欧州中央銀行（ECB）による資産買入れ期間の延長観測が強まったことなどから、利回りは低下しました。期の半ばは、米国国債利回りの上昇を受けて、ドイツの国債利回りも上昇しました。さらに、ECBによる金融政策の正常化が進むとの観測が広がったことなどから、利回りの上昇が加速しました。期の後半は、世界的な株安を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まる中、利回りは低下しました。ユーロ圏消費者物価指数（CPI）の伸び率が鈍化し、ECBによる金融政策の正常化への思惑がやや後退したことも、利回りの低下要因となりました。

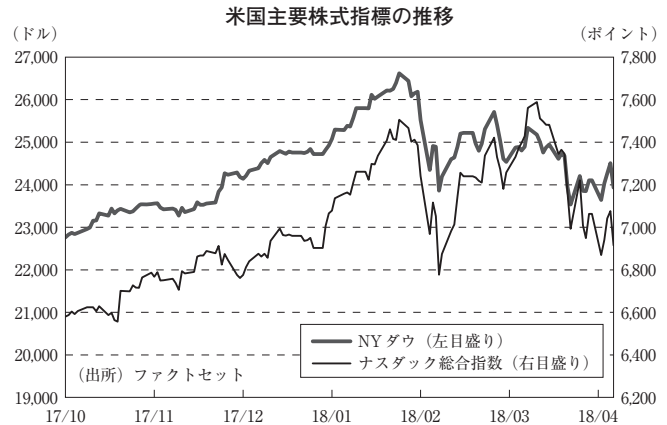
米国国債10年物利回りの推移



ドイツ国債10年物利回りの推移

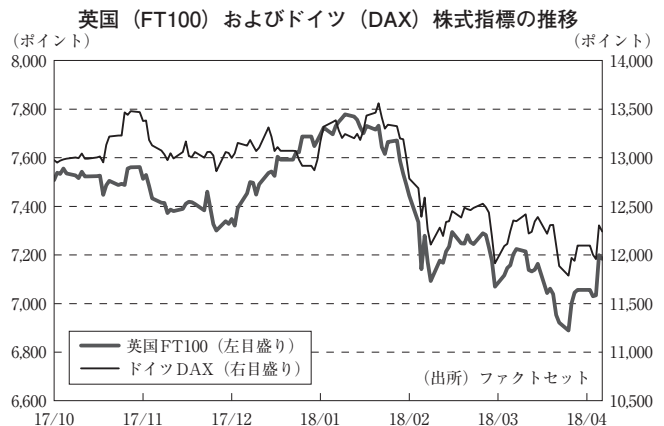


当作成期の米国株式相場は、上昇しました。期の前半は、米国議会での予算決議案の可決を受けて米税制改革の審議が進むとの観測が強まったことや、FRBによる利上げが緩やかなペースで進むとの見方が広がったことなどから、株価は上昇しました。期の半ばは、米税制改革法案が成立し、米国景気の刺激効果が意識される中、株価は上昇しました。さらに、米企業業績拡大への期待が膨らんだことや、米国景気の先行きに対する楽観的な見方が広がったことなどから、株価は上値を伸ばす展開となりました。期の後半は、米国国債利回りの急な上昇が嫌気され、株価は反落しました。その後、米国国債利回りの上昇が一服となる中、株価は反発しましたが、米政権による保護主義的な通商政策への懸念が浮上すると、再び下落するなど、乱高下する展開となりました。

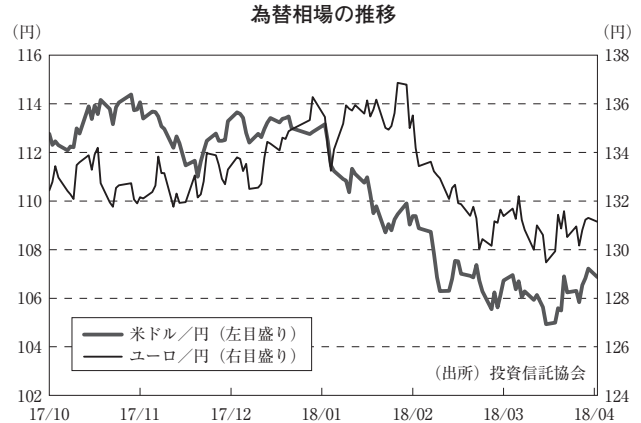


の懸念が浮上すると、再び下落するなど、乱高下する展開となりました。

当作成期の欧州株式相場は、下落しました。期の前半は、ECBが理事会で資産購入額の縮小を決める一方、資産購入期間の延長を決定し、金融緩和の縮小が緩やかなペースで進むとの見方が広がったことなどから、株価は一時上昇しましたが、その後はドイツの政局を巡り不透明感が強まったことなどから、下落に転じました。期の半ばは、米国の株式相場が高値を更新する中、欧州の株式相場も上昇しました。期の後半は、米国株式相場の急落をきっかけとした世界的な株安を受けて、欧州の株式相場も大きく下落しました。その後、株価は反発する場面も見られましたが、米通商政策に対する不透明感などを背景に上値の重い展開となりました。



当作成期の米ドル・円相場は、米ドル安・円高となりました。期の前半は、FRBによる利上げが緩やかなペースで進むとの見方が広がったことなどから、米ドル売り・円買いが優勢となる場面も見られましたが、その後は、米税制改革の実現期待が膨らんだことなどから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。期の半ばは、日銀が量的緩和縮小に向かうとの思惑が浮上したことや、米財務長官が米ドル安を歓迎する意向を示したことを受け、米ドル売り・円買いが強まりました。期の後半は、米国株式相場が急落し、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから、米ドル売り・円買いが進みました。その後も、株式相場が不安定な動きを示す中、リスク回避姿勢が意識されたことなどから、米ドル売り・円買い優勢の展開が続きました。



当作成期のユーロ・円相場は、ユーロ安・円高となりました。期の前半は、小幅なレンジでもみ合う展開となりました。欧州の景気が概ね回復基調で推移したことが、ユーロを下支えしました。一方、ECBが資産購入額の縮小を決める一方、資産購入期間の延長を決定し、金融緩和の縮小が緩やかなペースで進むとの見方が広がったことは、ユーロの上値を抑える要因となりました。期の半ばは、ドイツの国債利回りが上昇し、日欧金利差の拡大が意識されたことなどから、ユーロ買い・円売りが優勢となりました。さらに、ECBによる金融政策の正常化が進むとの観測が広がったことなどから、ユーロ買い・円売りが強まりました。期の後半は、米国株式相場の急落をきっかけとした世界的な株安を受けてリスク回避姿勢が強まったことから、リスク回避に伴う円買いが強まる中、ユーロは対円で下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年10月11日～2018年4月9日)

当ファンドは、主として「LM・グローバル債券マザーファンド」(以下、債券マザーファンド)および「LM・グローバル株式マザーファンド」(以下、株式マザーファンド)受益証券への投資を通じて、外国の公社債および株式に投資を行い、中長期的に信託財産の安定した成長を目指して運用に努めてまいりました。基本投資割合は、純資産総額に対して債券マザーファンド70%、株式マザーファンド30%を目安とします。マザーファンドへの投資割合が基本投資割合から一定の範囲を超えた場合には、組入比率の調整を行います。また、実質組入れ外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

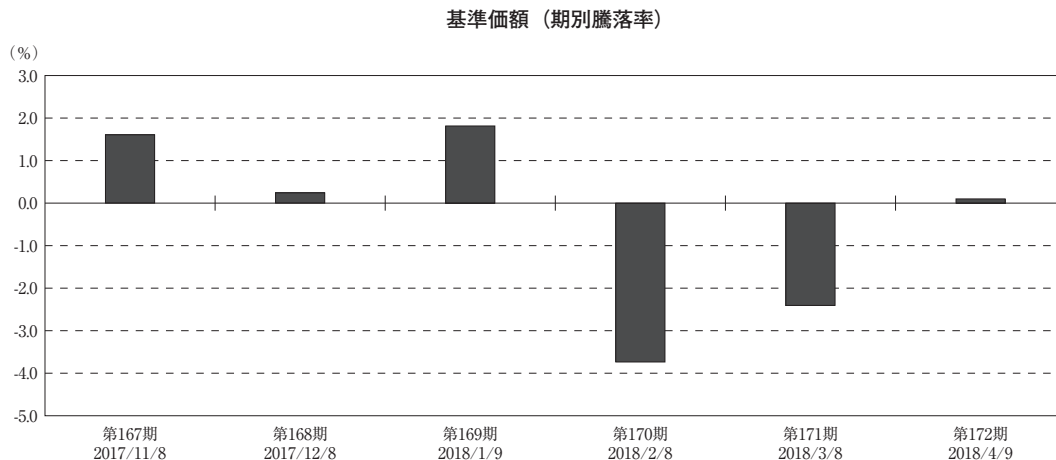
当作成期の運用においては、債券マザーファンドでは米ドル建およびユーロ建の国債を中心とした組み入れを継続しました。格付別では、AAA格の組入比率を引き続き高位に保ちました。株式マザーファンドでは、米国および欧州の主力優良銘柄を中心に、投資魅力度が高いと判断した銘柄を組み入れました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2017年10月11日～2018年4月9日）

市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率およびリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

以下のグラフは、作成期間の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

（2017年10月11日～2018年4月9日）

分配金につきましては、基準価額動向や保有債券の利子収入および保有株式の配当収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第167期	第168期	第169期	第170期	第171期	第172期
	2017年10月11日～ 2017年11月8日	2017年11月9日～ 2017年12月8日	2017年12月9日～ 2018年1月9日	2018年1月10日～ 2018年2月8日	2018年2月9日～ 2018年3月8日	2018年3月9日～ 2018年4月9日
当期分配金 (対基準価額比率)	20 0.209%	20 0.209%	20 0.206%	15 0.161%	15 0.165%	15 0.165%
当期の収益	13	11	15	2	5	12
当期の収益以外	6	8	4	12	9	2
翌期繰越分配対象額	617	608	603	591	581	579

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドにおきましては、これまでと同様に、マザーファンドを通じて外国債券および外国株式に投資を行い、中長期的に安定した信託財産の成長を目指すと同時に、引き続き毎月の分配金を享受していただくことができますよう、運用に注力していく所存です。

お知らせ

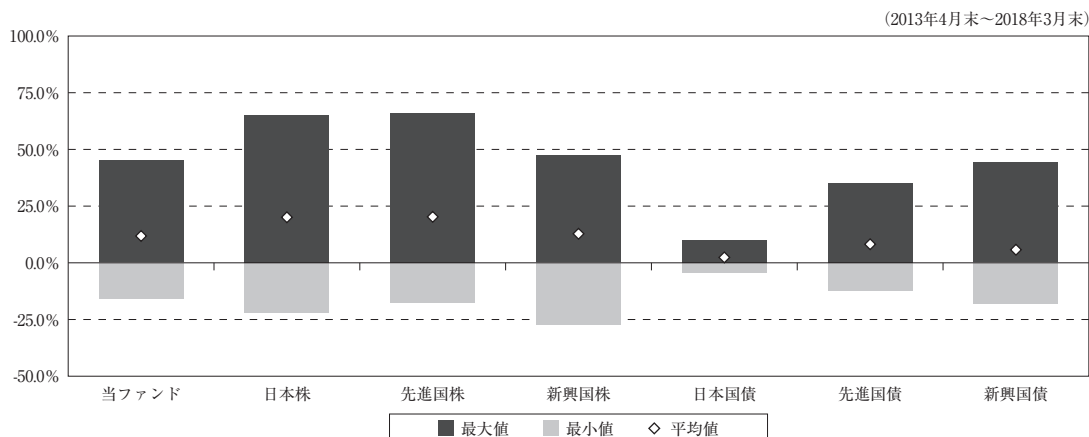
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	無期限	
運用方針	主として外国の公社債及び株式に投資を行うことにより、毎月の分配と中長期的な信託財産の安定成長を目指した運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	LM・グローバル債券マザーファンド、LM・グローバル株式マザーファンドの各受益証券を主要投資対象とします。
	LM・グローバル債券マザーファンド	日本を除く適格国通貨建ての確定利付証券（モーゲージ証券および資産担保証券を含む）を主要投資対象とします。「適格国」とは、OECD加盟国および非加盟国のうちA-またはA3以上の政府債務格付を有する国をいいます。
	LM・グローバル株式マザーファンド	主として日本を除く世界各国の証券取引所上場株式・店頭登録株式を主要対象とします。
運用方法	当ファンド	株式（新株引受権証券等を含みます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の40%以内とします。同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	LM・グローバル債券マザーファンド	株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権を行使した場合に限ることを原則とします。外貨建資産への投資割合には、特に制限を設けません。
	LM・グローバル株式マザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	決算日（原則として毎月8日。休業日の場合は翌営業日）に、基準価額水準等を勘案して収益の分配を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	45.2	65.0	65.7	47.4	10.1	34.9	44.1
最小値	△ 15.9	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.3	△ 12.3	△ 18.1
平均値	11.8	20.1	20.3	12.8	2.4	8.2	5.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2013年4月から2018年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

* 各資産クラスの騰落率を計算するために使用した指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、ヘッジなし・円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、ヘッジなし・円ベース）

日本国債：FTSE 日本国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：FTSE 新興国市場国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）

(注) 海外の指数は、各資産クラスに為替ヘッジなしによる投資を行うことを想定して、円ベースの指数を採用しております。

(注) 上記各指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はその指数を算出、公表しているそれぞれの主体に帰属します（TOPIX：株式会社東京証券取引所、MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックス：MSCI Inc、FTSE 日本国債インデックス、FTSE 世界国債インデックス、FTSE 新興国市場国債インデックス：FTSE Fixed Income LLC）。また、それぞれの主体は当ファンドの運用に関して一切の責任を負うものではありません。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2018年4月9日現在)

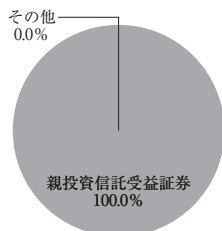
○組入上位ファンド

銘柄名	第172期末
	%
L M・グローバル債券マザーファンド	66.9
L M・グローバル株式マザーファンド	33.1
組入銘柄数	2銘柄

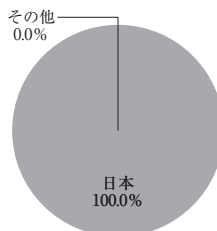
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

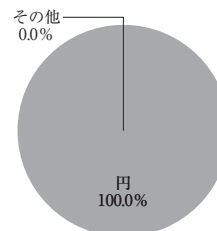
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

純資産等

項目	第167期末	第168期末	第169期末	第170期末	第171期末	第172期末
	2017年11月8日	2017年12月8日	2018年1月9日	2018年2月8日	2018年3月8日	2018年4月9日
純資産総額	40,425,324,800円	39,959,371,371円	40,125,005,036円	38,147,522,776円	36,832,075,291円	36,405,756,646円
受益権総口数	42,401,971,304口	41,899,259,488口	41,406,821,742口	40,961,662,214口	40,589,244,634口	40,148,968,044口
1万円当たり基準価額	9,534円	9,537円	9,690円	9,313円	9,074円	9,068円

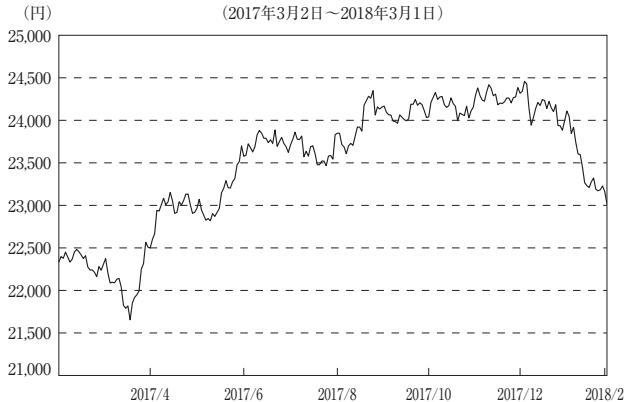
* 当作成期間（第167期～第172期）中における追加設定元本額は300,405,203円、同解約元本額は3,336,728,331円です。

組入上位ファンドの概要

L M・グローバル債券マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年3月2日～2018年3月1日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年3月2日～2018年3月1日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	5 (5)	0.022 (0.022)
(b) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)	3 (3)	0.013 (0.013)
合 計	8	0.035

期中の平均基準価額は、23,546円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2018年3月1日現在)

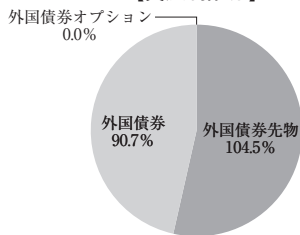
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 米国国債(5年)2018.6限月	債券先物(買建)	米ドル	アメリカ	49.8
2 ドイツ国債(10年)2018.3限月	債券先物(売建)	ユーロ	ドイツ	18.9
3 ドイツ国債(10年)2018.6限月	債券先物(売建)	ユーロ	ドイツ	11.0
4 US TREASURY NOTE 1.75% 2022/3/31	国債証券	米ドル	アメリカ	10.1
5 US TREASURY NOTE 1.875% 2022/1/31	国債証券	米ドル	アメリカ	9.7
6 ドイツ国債(5年)2018.6限月	債券先物(買建)	ユーロ	ドイツ	7.0
7 BELGIUM GOVT 0.8% 2025/6/22	国債証券	ユーロ	ベルギー	6.8
8 UK TREASURY 4.25% 2040/12/7	国債証券	イギリスポンド	イギリス	6.7
9 FRANCE O.A.T. 0.25% 2026/11/25	国債証券	ユーロ	フランス	5.3
10 US TREASURY BOND 3.625% 2044/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	5.3
組入銘柄数			45銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

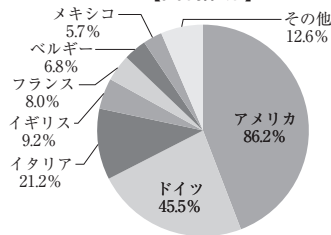
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

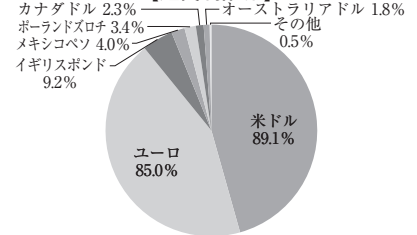
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 先物の比率は絶対値ベースで記載しております。

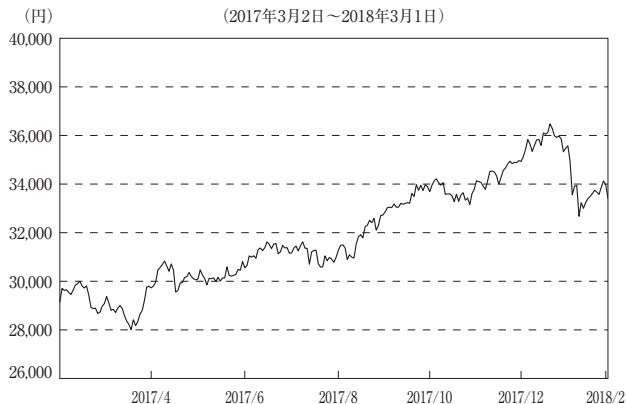
(注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

L M・グローバル株式マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年3月2日～2018年3月1日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年3月2日～2018年3月1日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	28 (26) (2)	0.086 (0.079) (0.007)
(b) 有価証券取引税 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	11 (11) (0)	0.034 (0.034) (0.000)
(c) その他費用 (保 管 費 用)	11 (11)	0.035 (0.035)
合 計	50	0.155

期中の平均基準価額は、32,216円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2018年3月1日現在)

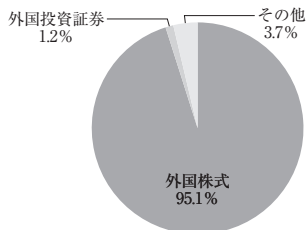
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
				%
1 APPLE INC	情報技術	米ドル	アメリカ	3.2
2 BOEING CO/THE	資本財・サービス	米ドル	アメリカ	2.0
3 FACEBOOK INC-A	情報技術	米ドル	アメリカ	1.7
4 BANK OF AMERICA CORP	金融	米ドル	アメリカ	1.5
5 FIAT CHRYSLER AUTOMOBILES NV	一般消費財・サービス	ユーロ	オランダ	1.4
6 A2 MILK CO LTD	生活必需品	ニュージーランドドル	ニュージーランド	1.4
7 ALPHABET INC-CL A	情報技術	米ドル	アメリカ	1.3
8 NORTHROP GRUMMAN CORP	資本財・サービス	米ドル	アメリカ	1.3
9 APPLIED MATERIALS INC	情報技術	米ドル	アメリカ	1.2
10 HOME DEPOT INC	一般消費財・サービス	米ドル	アメリカ	1.2
組入銘柄数			118銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

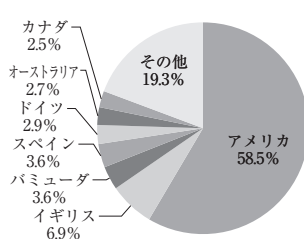
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

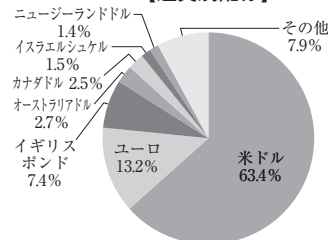
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。